



2024 年度市保連総会とシンポジウムを開催しました！

7 月 7 日（日）午前 10 時から、京都市保育園保護者会連合協議会（市保連）2024 年度総会を開催しました。今年度も、会場参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド方式で実施し、2023 年度の活動報告案・決算報告案と、2024 年度の活動方針・予算案、役員・事務局体制案について審議・承認をいただきました。

また当日は、総会のまえには現役保護者によるシンポジウム“語り合おう！子育てのリアル”において、子育てと仕事に奮闘し、上手くいったりいかなかったり悩んだりする日々の共有と、参加者同士の交流を実施しました。当日の交流会とシンポジウムの模様をお届けします。

保護者交流会 ～子育てのこと、保護者会のことなど、みんなで話し合いました～

交流会では、保護者が 2 つの小グループに分かれて話しました。各保育園の保護者会役員の決め方、アフターコロナの行事の在り方、それぞれの子育てについてなど、幅広い話題で盛り上がりしました。

「保護者会役員や、行事委員は大変で、敬遠されがちだけど、やってみたら、他の保護者とつながれるし、友達ができる。また、子どもたちが喜んでくれてやりがいを感じられる。だから、どうやってその良さをみなさんに伝えたらいいかなと考えている」というお話や、「子育ての大変さから、人と一緒に育てていくことの大事さを知って、もっと繋がりたいと思っている」というお話、

パネラーをしていた方からは、「この機会をもらって、初めて自分の子育てを振り返ってみた。貴重な体験ができた」という感想をいただきました。まさに、保護者同士のつながりが感じられる時間となりました。



市保連の保護者交流会に参加して

市保連の交流会に毎回参加するたび、普段なかなかお会いできない他園の保護者の方のお話を伺い、深く共感してはぶんぶんとうなずいたり、全く新しい視点に出会って驚いたり、たくさんの刺激をいただいています。子どものことと自分のことでせいいっぱいの毎日ですが、ほかの保護者の方のお話を聞くと風通しがよくなり、日々の出来事にも客観的な視点が持てるようになります。

特に今回はシンポジウム形式で 3 名の方の子育てのお話が聞け、ただ会話するよりもより深く掘り下げた内容で、三者三様のお立場、環境、考え方のお話をとても興味深く伺いました。最後の質問にあった「これからの子育て環境についてどのようになってほしいか」という話題は私が今まで持ったことがなかった視点で、3 名の方の答えを聞きながら、自分だったら何と言うだろうと考えさせられました。シンポジウムの後のグループに分か

れたの交流会も話は尽きず、それぞれのドラマが垣間見えて、もっと時間があればと思いました。

京都市内の別々の保育園に通う保護者の方の交流の場があるというのは、子どもをとりまく環境を大人がしっかり考えていこうという意味で素晴らしいことですし、事務局の方々の意思と努力、運営を楽しみお心気なくしては継続ができないことだと思います。

今年度より、私も事務局に参加させていただくことになりましたが、事務局のメンバーに保育園を卒園されたお子さんのおられる保護者の方が多くおられることに驚き、感動しました。この集まりが、広く保育園保護者の方が参加し、楽しい交流の生まれる場となるよう、そして少しでもすべての子どもを取り巻く環境が良くなるようにと願いながら、私も活動に参加させていただきたいと思います。

朱一 保育園保護者



保護者シンポジウム “語り合おう！ 子育てのリアル”



2024 年度市保連総会当日の保護者シンポジウム“語り合おう！子育てのリアル”では、市保連加盟園に通う3名の保護者の方々（菊谷さん／蜂ヶ丘保育園、岡部さん／たかせ保育園、池田さん／たかつかさ保育園）から、テーマごとにお話をいただきました。当日お話しいただいた内容をまとめさせていただきました。

仕事と子育ての両立について

▶妻は土日祝が休みで、休みの日も子どもと一緒に。夫は平日に休みもあり羽を伸ばせていたので、その辺りのバランスの悪いところに夫婦間のモヤモヤした部分があるようにも感じる。

▶家事や育児の割合は、9割以上が妻、1割以下が夫。妻は、もうそれでよいかなと思っているが、もっと夫に言ってきた方が良かったのかなと後悔の気持ちもある。夫へは、園に関わって欲しい気持ちがあるのでたまに送迎を頼む。たまにしか行かないので、持ち帰るべきものを置いてきたり、子どもに靴を履かせるのを忘れて帰宅したり、驚くようなことをしてくれる。仕事は自営業で、自宅が職場なので、合間時間に家事が出来る事は助かっている。上の子が不登校で、たまに学校に登校する日は朝から集団登校へ付き添い、中間休みにお迎えに行くという流れでかなり忙しい。一年中お昼ごはんを用意しないといけないのも大変。仕事をしながらも子どもとも関わっているので、生活のメリハリをつけることに苦労している。

▶大学教員で夜の会議もあるが、時短勤務で帰るように心がけている。先輩の母から、「仕事と子育てを両立できている人はゴリラと思えばいい」と助言をいただいている。私は人なので、うまく両立できないのは仕方が無いと納得してやりくりしている。子育て支援をされている方から、「子どもへの食事面での栄養は保育園でやってくれるから、ビスケット2つでも大丈夫」と言われ、家庭であまり食べてくれなくてもビスケット2つよりは食べているかなと納得しながら過ごしている。土日は夫婦で分担して子育てをしている。人の限界を感じながら、楽もできるような環境を作っている。

▶子育てが大変な時は、自分に取って耳当たり良い言葉を取り入れるようにして、食卓では争わないように心がけている。親がまずごきげんでいられるように、を大切にしている。

もっとこんな制度や支援があったらいいなと思うこと

▶保育園の先生達の待遇はもっと上げるべき。本当に子ども達をよく見てくださっていて、先生達にはリスペクトしかない。先生の待遇が良くなることで、サポートや子育てへの良い影響が出てくと思う。もっと保育士が増えたら、保護者との送迎の際の会話が増えると思うし、もっとカジュアルに話ができるようになるのではないかな。

▶保育園での空間はとても子育てしやすいと感じる。少子化なのに、園の中では出生率が高い。3人以上のきょうだい児も多く、保育園の中では「もう1人子どもを育てられるかも」と思える環境作りが出来ているように思う。どんな育児本を読むより、先生の子どもの向き合い方を観察するのが一番のお手本であり学びであると感じる。地域全体で、もっとたくさん子どもや親にとっての居場所作りをしてほしいと思う。休日、“公園で集まろうの会”などを保護者同士で企画する事があるが、同じ世代の子育て中の親子が集うことで協力できることは沢山あり、子ども同士が遊んでいる間に親同士も交流でき、みんな一緒に見守っていける環境は大切だと感じる。地藏盆のような地域の高齢者の方も一緒に集える場、年齢の

枠を越えて三世代間が話せる場があるとよいなと感じる。

▶保育料が高いなあと思う。他の地域に住んでいる友人と比較して痛感する。下京区に公園がない。梅小路公園は人が多過ぎて、子どもが怖気づく。ゆったり遊べる公園が欲しい。園ではイヤイヤ期で1歳児クラスはギャン泣き状態なので、保育士の配置を上げて欲しいなと感じる。

子育てしてよかったと思うこと、

次世代に残したい子育て環境

▶日々の子どもの成長を見ている中で、子育てしていて良かったなと感じる。自分の子どもだけでなく、他の子どもたちも含めて成長を見守っていききたい！と、そう思える大人になれてよかったと感じる。出生率が低いのは、国や社会(私達を含めて)の責任は大きい。平和であることは大事だと思うし、経済的な問題や野蛮な空気が、今の世界にはあるようにも感じる。

▶保護者会や市保連の活動など、子どもがいたからこそできた関わりから色んな繋がりができ、視野が広がってきたように思い、今の暮らしはとても充実している。人の繋がりを大切にできるような社会を子どもたちに伝えていきたい。人生の大先輩に、「子どもの視野を広げてあげる為には、地球儀を見せて広い世界のことを教えてあげて」と言われた。これから先、社会に出ていくときに子ども達に逃げ道も教えていくことで、子ども達を守ってあげられることになるのではと感じる。

▶子どもは毎日笑って、毎日泣く。1日1日を全力で生きていて、毎日が楽しいんだなと微笑ましく感じる。保護者懇談会などでは、自分が関わってきた中では出会わないような方たちと出会える。子どもがいるのは本当に楽しいことであり、子育て罰という言葉がある今の日本で、子育てが大変な事ではない世の中になればいいなと願っている。

●感想

みなさん、仕事をしながらの子育てにおいて、大変さを抱えながらも、楽しんでいる様子が窺えました。完璧は追い求めず、無理をせず、まずは親が笑顔で機嫌良く過ごせるよう工夫しておられる印象がありました。

保育園や先生達には日々の保育へ感謝しながら、子ども達と一緒に育てていくパートナーとして、これからも深く繋がっていききたいと改めて感じさせられました。



よろしくお願ひします & おつかれさまでした

～市保連役員 就任・退任のご挨拶～

2024 年度会長就任のご挨拶

2024 年度市保連の会長を仰せつかりました。小山大介と申します。紙幅をお借りし、ご挨拶させていただきます。私たち家族には、4 歳になる子どもが 1 人おり、現在、朱い実保育園に通園しております。また、ご縁があり、保育園の保護者会長を務めております。

子どもたちの日々の成長とともに、親も一緒になって成長できる嬉しさをかみしめつつ、保護者の皆さま、保育園関係者の皆さまと意見交換しておりますと、京都市を取り巻く保育環境が厳しいものになっているのを感じます。京都市における現役世代の人口減少、市外への流出、保育士さんの人手不足など課題は山積となっています。京都の近隣自治体では、子育て支援を政策の柱に位置付ける自治体が増加し、0 歳から 2 歳児の保育料無償化や医療保の無償化、育児施設の整備を進める動きが活発化しています。それらの取り組みを行っている自治体への人口流入が進んでいます。

また、政府肝いりの「こども誰でも通園制度」は、現場に過度な負担を強いてしまうだけでなく、保育の信頼性そのものを

損なうものではないかと心配しております。保育士さんや栄養士さん、調理師さんの待遇改善も急務だと感じております。私たちが日々、仕事に従事することができるのは、保育園への信頼があるからに他なりません。保育園側、保護者側、そして子どもたちとともに、保育園を作っていく活動はコロナ禍のなかで、危機に陥りましたが、保護者側からの積極的な活動や働きかけが今まさに必要となっています。

市保連といたしましても、学習会の実施や行政との懇談、意見交換などを通じて、保護者目線から積極的な発言を続けることで、「より良い」保育環境の構築を進めていきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。また、市保連の活動に共感頂き、一緒に活動して頂ける方、学習会に参加頂ける方、いつでも大歓迎です。一緒に、京都の「より良い」保育環境を創っていきましょう。

京都市保育園保護者会連合協議会
2024 年度会長 小山 大介

副会長退任のご挨拶

西山 頌秀

現在小学校 6 年、3 年、1 年生の子どもたちが 11 年間、保育園にお世話になってきました。市保連の副会長は 2017 年以来、7 年間務めさせていただきました。自園で保護者会長を担った 2015 年からだと保育園生活のほとんどを保護者会活動にかかわらせていただきました。悩み多き子育て期間に保護者仲間がたくさんできたことは、これからの子育てでも励みになりそうで、感謝でいっぱいです。

10 年前、保育園情勢は「待機児童問題」で全国をにぎわしていました。自園でも、きょうだい児で入所できなかった方が多数おられました。保育園は定数を超えて受け入れをがんばっていましたが、それでも不足していました。保護者で保育園を増やすよう京都市に求めました。自園は、分園を増やしました。その土地取得のために近隣地域へのご挨拶、予算確保のためのバザー、オリジナルの T シャツつくって、保護者同士で子育て談義して学習会して、いろいろ経験できました。一方、市は「民間にお任せ」の方針でした。民間園は小規模事業者を中心に増えました。現在、子どもの数が減ったもつで、そこで働く保育士の方々が職を追われています。市の保育士さんも減らされています。そして市は民間保育園への補助金をカットしています。私たち保護者がのぞんでいた「京都市が保育に責任を持つ」姿には、まだ遠い距離を感じています。

それでも私はまだ京都市の保育をよくすることができます。今年度、あらたに自園の卒園児保護者の会で役にあたることとなりました。今後も現役、保育園保護者の声をお聞きしながら、市をにらみ続けて、いつかうちの子がもし子育てしたくなった時には「今はいい時代になったんだ」と言えるようになりたいですね。

ひとまず、保育園生活のなかでも濃い経験をいただいた市保連と保護者仲間に重ねて感謝を申し上げてご挨拶とします。

役員退任のご挨拶

田中 智子

今年の 3 月に下の子が保育園を卒園し、この度の総会を持ちまして、市保連役員を退任しました。役員在任中は、多くの保護者の方と交流をし、いろいろ貴重な経験をさせていただきました。

私が、保護者という立場で保育運動に関わりを持ったのは、上の子どもが保育園に入園した 10 年以上前に、保育料の高さに驚くとともに、本当にこれは保護者が負担するべきものなのだろうかという疑問が生じたことがきっかけです。その後、多くの人と議論する機会を持ち、厚生労働省の前でマイクを持って訴え、きっと同じ思いをしている人がいるという気持ちから調査をし、議員や京都市に思いを伝えにいくということなどを経験させていただきました。

いろいろな場で、保護者という立場で子どものことや家庭事情などを話したり聞かれたりすることに最初は戸惑いもあったのですが、次第にこのように生活や思いを伝えていかなければ社会に気づいてもらえないというように思うようになりました。個人的なことは政治的なこと、生活は政治ということを実感することのできた貴重な経験となりました。

また市保連を通して出会えた保護者仲間とは、本当にいろんなことを話しました。子育てが上手いかないと感じているときに、愚痴を聞いてくれ、ときに私が思いもよらない助言をもらえたことに何度も救われました。親が社会とつながることで、子どもを大事にできる、子どもを社会で育てるってこういうことなんだと実感しました。

現役保護者としてはひと段落ですが、保護者としての役割は、まだまだ続いています。私たちの子どもたちが、子育てをするときに、子どもがいる人生って面白いよと胸を張って言える社会を手渡していくために、これからも多くの人と繋がりながら進んでいきたいと思っています。

三者懇談会での手応え

～京都市保育園連盟・京都市保育士会との懇談に参加しました～

2024年8月8日(木)、京都市保育園連盟、京都市保育士会、そして京都市保育園保護者会連合協議会(市保連)の3者で毎年行っている三者懇談会に出席いたしました。1時間半という短い時間でしたが、率直な意見交換ができたと考えております。

保育園、保育士、保護者それぞれ立場は、異なっておりますが、京都市におけるより良い保育環境の実現を目指している点で共通点が多いと感じました。京都市は、歴史的にも町衆の力が強く、多方面から市政に協力してきました。そのようなこともあり、京都市内の保育行政は、民間の保育園、保育士、保護者会活動、そして行政の協働によって支えられています。この土台に立って、それぞれの視点から意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。市保連として引き続き、このような機会を作っていけるよう対話を重ねていきたいと考えています。

市保連からは、子どもと保護者の安全・安心の確保という視点からお話をいたしました。保育園経営の安定化、保育から就学へのスムーズな移行、保育士、調理師、管理栄養士の待遇改善、人材確保に向けた賃金補助の拡充、働き方改革について、お話いたしました。くわえて、0歳から2歳児の保育料の見直し、多文化・多言語、多様性の重視についてもお話いたしました。

保護者が安心して、子どもを保育園に預け、一生懸命働くことができるのは、保育園や保育士がゆとりをもって、日々の保育に集中できる環境があったらことです。市保連としても、各種団体、京都市との意見交換や情報交流を進め、より良い保育の実現に向け活動を進めていきたいと考えております。

京都市保育園保護者会連合協議会
2024年度会長 小山 大介

2024年度第1回保護者会活動交流会のお知らせ

2024年度第1回市保連保護者会活動交流会を下記の通り開催します。

日時：2024年9月6日(金) 19時から21時

場所：ラポール京都(京都労働者総合会館)5階(市保連事務所)
京都市中京区壬生仙念町30-2

※ オンライン参加(Zoom使用)も可能です。

※ 保育はありません。

オンライン参加をご希望の方は、9月3日(火)までに市保連事務局へメール(info@shihoren.net)にてご連絡ください。折り返し、事務局よりZoomミーティングID・レジュメなどをお送りします。

各園の保護者会役員が抱える悩みを相談し合い、他の保育園の状況について知り、交流する機会ともなります。未加盟の保護者会、保護者個人でのオブザーバー参加も歓迎します。



●お仕事と子育てで大変お忙しい日々と思いますが、皆さまぜひご参加ください！●

★市保連メーリングリスト／LINE オープンチャットご登録のお願い★

京都市保育園保護者会連合協議会(市保連)では保護者・保護者会相互の交流や情報交換のため、メーリングリストとLINE オープンチャットを設けています。参加資格は各保護者会の会長、副会長、または市保連を担当する役員の方々です。ぜひご参加ください。参加を希望される方は、市保連事務局(info@shihoren.net)までメールにてご連絡いただければ、参加方法をご案内します。



『市保連ニュース』のバックナンバーは、市保連ホームページで公開中です！